



地域の暮らしを守る中心に

一般社団法人櫛池農業振興会（新潟県上越市）

- 新潟県上越市の櫛池地区は長野県飯山市に隣接する標高90～490mの11集落からなる中山間地域であり、昭和51年から平成5年にかけてほ場整備が実施された稲作地帯である。
- 平成12年度から中山間地域等直接支払制度に参加しており、平成17年度からは隣接する菅原地区の1集落とともに12集落で広域協定を締結するほか、平成19年度からは農地・水環境保全対策に取り組み、農地の保全などを行っている。
- 一般社団法人櫛池農業振興会は、中山間地域等直接支払、多面的機能支払の広域協定の活動組織として平成30年に一般社団法人化。令和5年度から実施されている櫛池地区、菅原地区からなる清里区における農村RMO形成推進事業において中心的な役割を担っている。

【地区概要】

- ・ 取組面積： 226ha
(田 226ha、畑 0ha)
- ・ 資源量：水路 89km、農道 43.6km、
ため池 7箇所
- ・ 主な構成員：営農組合、自治会、老人
クラブ等
- ・ 交付金 約20百万円（R6）

（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

地域の状況や課題

- 中山間地域等直接支払制度が第1期対策から第2期対策に移行する際、農家の高齢化、減少によって取組を断念せざるを得ないとの懸念があり、農地・農業を地区全体で守っていこうという地域の意向から広域化が図られた。
- 農地・水対策を開始する際には事業実施のメリット、事務処理の軽減について丁寧に説明し、当初から広域化して実施。
- 人口減少、休耕地の増加等が加速する中で、新潟県の事業によって地域の現状を知り、地域の将来を地域住民で考えるワークショップが開催され、さらに取組を一歩進めるために農村RMO形成推進事業に取り組んだ。
- 農村RMOに取り組むにあたって櫛池農業振興会が中心となって清里区農村RMO協議会を設立。

櫛池農業振興会の役割

- 農村RMOに取り組むにあたって、櫛池農業振興会が先頭になって地域の関係組織と調整。社会福祉協議会、星の清里協同組合といった農業関係以外の組織とも連携して清里区農村RMO協議会を設立。
- 農村RMO協議会の事務局も担い、司令塔。

清里区農村RMO協議会

（一社）櫛池農業振興会
中山間地域等直接支払集落協定（広域集落協定）
多面的機能支払広域協定（広域活動組織）
指定棚田地域振興協議会（12からなる棚田群）
櫛池地区11集落、菅原地区1集落

（公財）清里農業公社

清里区認定農業者連絡協議会

星の清里協同組合

社会福祉協議会清里支所

新たな取組に向けて

- 平成20年には農林水産祭天皇杯を受賞するなど早くから地区全体で地域を守るという住民意識が形成されている。
- 櫛池農業振興会の12集落以外の地域を含めた清里区全体を対象にした清里区農村RMO協議会設立後は、地域住民の理解醸成に努めつつ、農村RMOの新たな取組に着手。
- 農村RMOでは構成員が情報を共有し、各分野毎に専門知識や地域とのつながりを活かして活動を展開。
- 櫛池農業振興会は清里区全体を対象とした清里農地保全隊を設立し、共同活動の実施が困難になった集落の支援を開始。
- 農村RMOの活動を進めていくためには地域住民、組織の理解促進が必要であり、発足前の支援も重要。

Step 1 (S51~H5)

ほ場整備を推進 法人等の設立

- ・ほ場整備を推進するとともに、担い手の確保に向けて農業公社や農業法人を設立。（ほ場整備率85%）

Step 2 (H12~)

中山間地域等直接支払に 取り組む

- ・櫛池地区の11集落、隣接する菅原地区のうち1集落で中山間地域等直接支払に取り組む。

Step 3 (H16~)

櫛池地区生産組織 連絡協議会の設立

- ・地区内の7つの生産組織において、更なる農業機械の効率的利用や作業の協力体制を構築することが目的。

・H20には、その機能を櫛池農業振興会に引き継ぎ解散



農地保全隊の活動

- ・農村RMO形成推進事業の取組にあたっては地域住民、組織の理解が重要であり、準備が大事。
- ・構成員が情報共有し、それぞれの分野で能力を発揮していく。

一般社団法人櫛池農業振興会

（経緯）

H18の櫛池地区農業振興会の設立以降、H20に櫛池農業振興会に名称変更、H30には一般社団法人化

（概要）

旧JA櫛池支店を借用し、拠点を整備。専従職員3名
各町内会から推薦を受けた者を役員に。

軽ワゴン車も導入

（業務の役割）

中山間地域等直接支払交付金の事務処理、
中山間地域直接支払広域事業の企画、事務処理
多面的機能支払交付金「広域組織」の事務処理
櫛池地区の各種会合の場（地域住民のよりどころ）
農業法人、生産組合等の連絡調整、会計事務支援

（支部（集落）の役割）

農業生産活動と多面的機能増進活動

耕作放棄の防止等活動、水路農道の管理活動、景観作物の作付け、集落独自の活動

- ・多面的機能支払交付金を優先活用していくことで、中山間地域等直接支払交付金の活用の自由度を高めている。

H19からは農地水・環境保全対策の広域組織として取組開始。

基本理念

- ・国や県の施策や事業を有効に活用
- ・これらに対応できる地域づくり
・集落の取組を尊重
- ・地域の組織、機構を簡略化し、集落の負担を軽減。

Step6 (R5~)

農村RMO形成推進事業の取組

- ① ビジョンづくり（地域住民自ら関わることが重要）
- ② 実証事業
小中学校との連携、ハーブなどの植栽/加工、農地保全隊きよさと朝市・体験型プログラム
こども食堂・多世代交流拠点創設
- ③ 運営組織の形成に向けた準備
先進地視察、ワークショップ

Step 5 (H18~)

櫛池地区農業振興会の設立

- ・櫛池地区が一つになって農地・農家・集落・地区を守る体制づくり。
- ・個々の集落や農家に不足する機能を補え合える体制づくり。
- ・徹底した生産コストの低減



農地の状況

Step 4 (H17~)

中山間地域等直接支払 広域協定の締結

- ・地区全体で地域の農業・農地を守っていこうということから中山間地域等直接支払に取り組む櫛池地区11集落、菅原地区1集落で広域協定を締結。

課題

中山間地域等直接支払の第2期対策への移行に向けて、人口減少・高齢化によって農業や農地の保全活動の継続や制度実施の事務作業に不安拡大。